

日時：令和3年11月5日（金） 13：00～17：00
場所：熊本地方合同庁舎

鹿児島県のグローバル産地づくり 推進事業の取組み

事業実施者：JA鹿児島県経済連

事業実施主体：鹿児島県



趣 旨

- ◇ 国内の食市場等が減少していく中、本県の基幹産業である農林水産業を維持・発展させるため、国際経済連携等によるグローバル市場の出現を新たなビジネスチャンスと捉え、県産農林水産物の更なる輸出拡大に向けた指針となるビジョンを策定
- ◇ 輸出重点品目、輸出重点国・地域を明確にした上で輸出目標額を設定し、その実現に向け、鹿児島の強みを生かした短期・中長期の戦略的取組を展開

現状・課題

【現状】

- 平成28年度(2016年)の県産農林水産物の輸出額は、過去最高の約155億円
〈内 訳〉
 - ・ 牛肉等の農畜産物 : 約73億円
 - ・ 丸太等の林産物 : 約12億円
 - ・ 養殖ブリ等の水産物 : 約69億円
- 主な輸出相手国・地域は、農畜産物がアジア諸国(お茶:米国) 林産物が中国、水産物が北米

【課題】

- 更なる輸出拡大に向けては、
 - ① 輸出相手国・地域の動植物検疫や認証基準に対応した産地づくり
 - ② 農林水産物を持続的に輸出するための生産基盤の強化
 - ③ ニーズに応じた商品づくり
 - ④ 高品質流通技術の開発・普及
 - ⑤ 輸送コストの低減
 - ⑥ 海外での認知度向上

の取組等が必要

ビジョンの実現に向けた戦略的取組

輸出サプライチェーンを「つくる」、「あつめる・はこぶ」、「うる」の3つに柱立て。それぞれに「かう」側の視点(★)を入れた取組を進める。

つくる

- 輸出向け生産者の裾野の拡大
- 輸出相手国等ニーズの把握(★)
- AI, IoT等による生産コストの低減
- GAP・ASC等の認証取得の促進(★)

など

あつめる・はこぶ

- 輸出集荷組織の育成
- 混載等による輸送コストの低減(★)
- 小ロットに対応した輸送手段等の構築
- 鮮度保持技術の研究・開発の推進

など

うる

- 海外で魅力をPRできる人材の育成
- SNS等を活用した情報の発信(★)
- 統一ロゴなどによるブランドイメージの向上
- ECサイト等多様な販売ツールの確保(★)

など

* 目標達成に向け、ロードマップに基づく計画的な取組を推進

重点品目

牛肉, 豚肉, 鶏肉, 鶏卵, お茶, さつまいも, きんかん/丸太等/
養殖ブリ・カンパチ等

重点国・地域

香港, シンガポール, 台湾, タイ, 中国, 韓国, アメリカ, EU等

推進体制等

ビジョンの実現に向けて、司令塔となる組織と品目別部会からなる推進体制を整備

国際的経済連携協定の進展を見据えながら戦略的な取組を展開

目指す姿

令和7年度(2025年)

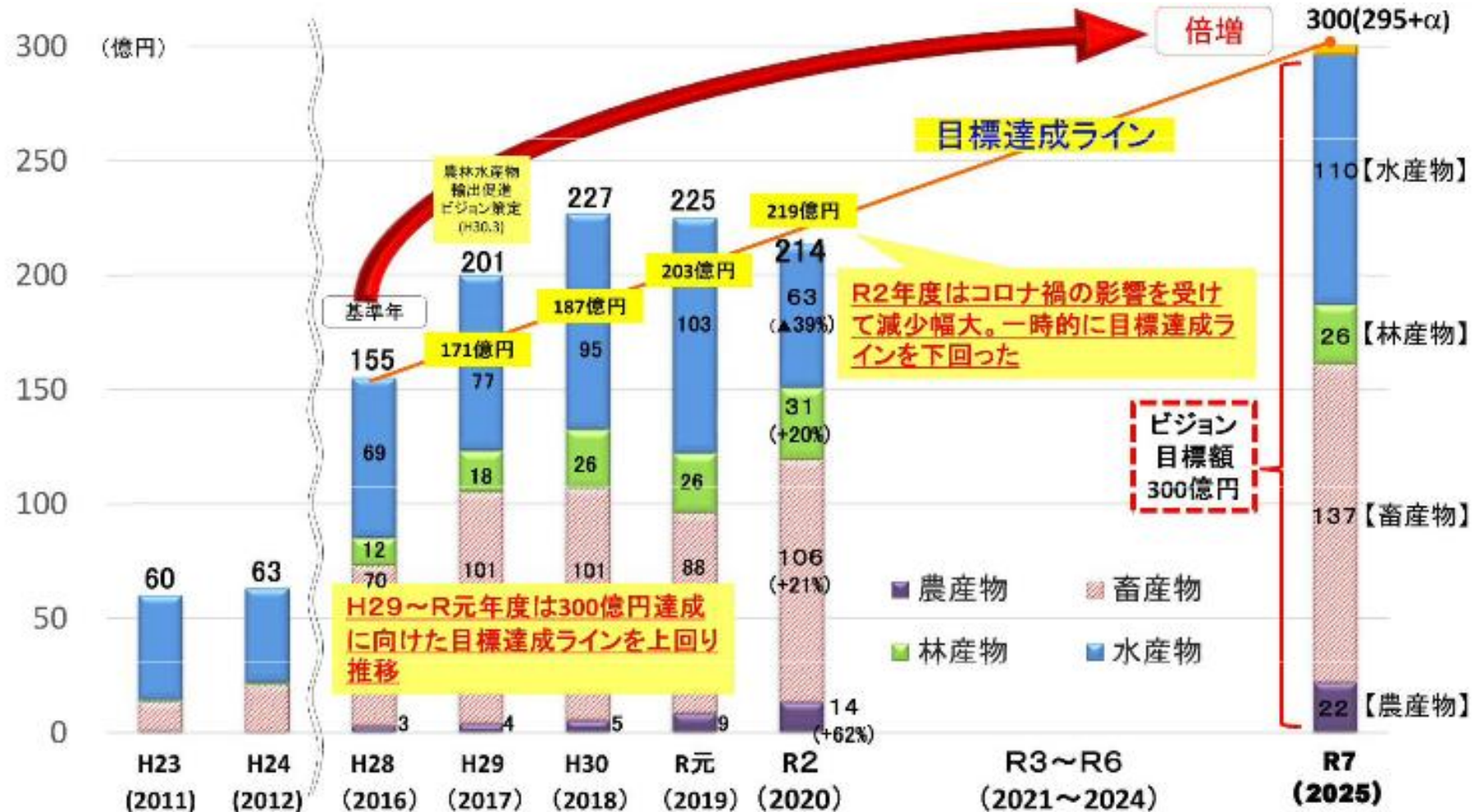
農林水産物の輸出拡大による「攻め」の農林水産業を実現

- ◆ アジアや欧米に向け農林水産物が安定的・持続的に輸出され、「攻め」の農林水産業が展開
- ◆ 海外での県産品の認知度が高まり、『かごしまブランド』が確立
- ◆ 多くの農林漁業者が輸出に取り組み、所得向上により後継者が確保され地域経済に貢献

輸出目標額は倍増の
約300億円を実現

鹿児島県産農林水産物の輸出額の推移（全体）

- ◇ 令和2年度の県産農林水産物の輸出額は対前年度比5%減の**約214億円**となりました。
- ◇ 水産物の輸出が大幅に減少した一方、農・畜・林産物は平成23年度の本公表開始以降最高額を更新しました。
- ◇ 目標輸出額300億円に向け、基準年から毎年16.1億円の増加が必要ですが、令和2年度はわずかに下回りました。



※輸出額については億円単位で表示。対前年度比は百万円単位で計算したものを表示。

令和2年度鹿児島県産農林水産物の輸出額（品目別・国地域別）

- ◇ 品目別では、畜産物が約106億円、農産物が約14億円、林産物が約31億円、水産物が約63億円となっています。
- ◇ 主な輸出先国では、米国 約79億円、香港 約48億円、中国 約28億円、台湾 約20億円、シンガポール 約10億円、EU 約10億円となっています。

輸出額比較

(1) 品目別 (単位：億円、%)

農林水産物		令和元年度	令和2年度	前年度比
	畜産物	87.45	105.97	121
	農産物	8.51	13.78	162
	林産物	25.99	31.27	120
	水産物	102.99	62.81	61
合計		224.95	213.83	95

(2) 主な品目別 (単位：億円、%)

区分		令和元年度	令和2年度	前年度比
畜産	牛 肉	77.67	88.92	114
	豚 肉	3.16	6.99	221
	鶏 肉	3.93	4.54	116
	鶏 卵	2.68	5.52	206
	小 計	87.45	105.97	121
農産	お 茶	4.58	7.63	167
	さつまいも	3.1	5.21	168
	そ の 他	0.84	0.94	112
	小 計	8.51	13.78	162
林	丸 太 な ど	25.99	31.27	120
水産	養 殖 ブ リ	95.01	58.17	61
	養殖カンパチ	2.51	0.82	33
	そ の 他	5.47	3.82	70
	小 計	102.99	62.81	61
合 計		224.95	213.83	95

(3) 輸出相手国別 (単位：億円、%)

区 分	令和元年度	令和2年度	前年度比
米 国	103.32	78.68	76
香 港	34.68	47.97	138
中 国	26	28.08	108
台 湾	17.39	19.97	115
シンガポール	8.88	10.36	117
E U	14.92	9.66	65
タ イ	3.45	4.5	130
そ の 他	16.31	14.61	90
合 計	224.95	213.83	95

※ラドの関係で合計等が合わない場合がある。

※県産農林水産物を輸出している概ね142輸出事業体に聞き取り調査を行い、回答があったものについて取りまとめているため、県産農林水産物全ての輸出額ではない。

(参照元) 令和2年度鹿児島県産農林水産物の輸出額

事業名：鹿児島県輸出用きんかん産地づくり推進事業（令和元年度～）

現状

- 東南アジア諸国で春節時期の縁起物として需要あり
- 特に、品質の高い日本産は高い需要

課題

- 台湾における残留農薬基準は日本と異なり、より厳しい基準が設定
- 基準を超えた残留農薬が検出された場合は輸出停止など厳しい措置

対応

- 台湾への輸出を前提とした産地の育成
- 台湾の残留農薬基準に対応した防除暦の作成
- 実需者（輸出商社・輸入商社）と密接に連携した出荷計画の作成

目標

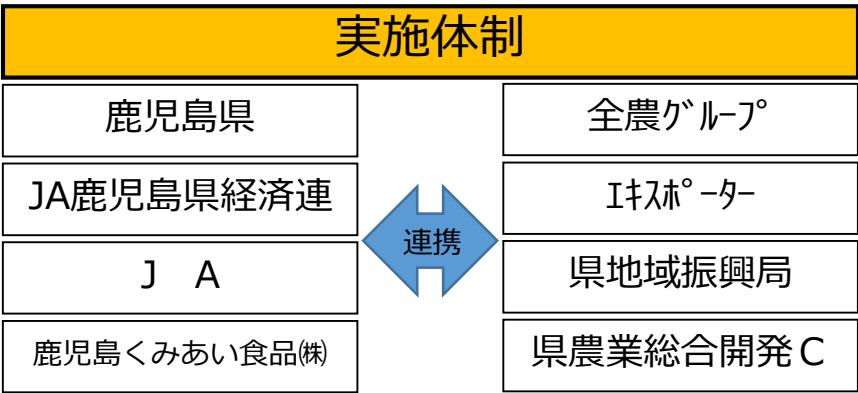
- 鹿児島県のきんかん輸出額の拡大
- 対象産地のきんかん輸出量の拡大
- 他のきんかん産地への波及

成果

- 台湾向けきんかん産地づくり（JA鹿児島きもつき・JA南さつま）
- 鹿児島県きんかん輸出額の拡大
- アジア諸国における鹿児島ブランドの育成



実施体制



台湾向けきんかん産地

鹿児島県の南西部に位置し、南さつま市（加世田・笠沙町・大浦町・坊津町）・枕崎市・南九州市（知覧町・川辺町）の南薩地域3市を区域とした県下でも大型のJAです。

耕種部門では、温暖な気候と山間冷涼を活かしたお茶の生産が盛んで、「加世田完熟かぼちゃ」や「知覧紅」、「きんかん春姫」、「たんかん」が県ブランド指定を受け、一大産地を形成しています。



東側は太平洋、西側は錦江湾に面し、内陸部は、高隈山系と国見連山に囲まれ起伏に富んだ気象条件豊かな地域となっております。

農業地域は、広大な畑作台地、肝属川水系の水田地帯、湾岸沿いの無霜地帯に大別され、寒暖の差や日照など気象状況も変化に富んでおり、それぞれの地域でその特性を生かした多種多彩な農産物の生産がなされ、また、温暖な気候を利用した畜産も盛んであり、実に農業資源豊富で農業が盛んな地域となっております。



台湾専用の包装資材の作成

※消費者に対して安心安全な鹿児島県産きんかんのPR



ラベル (ローマ字表記)
KIMOTSUKI KINKAN



ラベル (日本語表記)
きもつき きんかん



写真：台湾におけるJA鹿児島きもつき産きんかんの販売（Citysuper・微風広場）

事業名：鹿児島県輸出用抹茶産地づくり推進事業（令和元年度～）

現状

- 規模拡大・省力化が進展し、鹿児島県の茶の産出額が2019年は252億円になり、初めて全国1位となった
- 有機栽培面積532haのうち、有機JAS面積は415ha（78%）（平成29年度）**全国トップクラス**

課題

- 仕上げ茶の割合が低く、最終製品に至る付加価値を取り込めていない
- 国内の緑茶需要は減少。海外で需要が多いと考えられる有機抹茶を生産する産地育成に遅れ

対応

- 有機抹茶産地の育成
- モデル農家の選定と栽培実証の実施
- 欧米市場における有機抹茶の需要調査と生産体制への反映

目標

- 鹿児島のお茶輸出額の拡大
- 新たな輸出仕向け有機抹茶産地の育成・拡大

成果

- 鹿児島県のお茶輸出額の拡大
- 欧米市場における需要の把握
- 有機抹茶産地の育成・拡大



実施体制

鹿児島県	連携	全農グループ
JA鹿児島県経済連		イキホーター
J A		県地域振興局
JAかごしま茶業(株)		県農業総合開発C

輸出用有機抹茶産地



南九州市

現在3,425ha（東京ドーム約730個分）の広大な茶園で、年間約13,000トン（県内約50%）の荒茶を生産しており、生産額は約130億円を誇り、知覧茶ブランドとして国内外で販売されています。

霧島市

有機JAS認証茶園面積が日本一であり、九州内で初めて有機碾茶（抹茶の原料）を製造し、良質茶を生産しつつ時代のニーズに合わせた多種多様な茶を育む産地です。

志布志市

県内でも2番目の茶面積、荒茶生産量を誇る全国でも有数のお茶の産地です。

経済連グループの抹茶の主な仕向先



アメリカやヨーロッパでの抹茶需要が増加傾向

更なる輸出拡大に向けた今後の課題

海外からの抹茶の引合いは大半が有機抹茶

有機抹茶の原料確保が重要

抹茶は50gや100gなどの小袋詰め対応が求められる

小袋充填に対応できる設備体制が必要

事業名：鹿児島県輸出用さつまいも産地づくり推進事業（令和2年度～）

現状

- 鹿児島県は温暖な気候と全国第2位の広大な畑地を活用した野菜生産が盛んな産地で、さつまいもの生産量は全国1位である
- 海外では品質の高い日本産さつまいも「紅はるか」「安納芋」は需要が高い
- 他の野菜と低温リーファーコンテナに混載される物流体系となっている（輸送中の腐敗・輸送後の品質低下）

課題

- 輸出を増やすためには海外で評価が高い「紅はるか」や「安納芋」など焼き芋で人気のある品種の海外仕向け圃場を拡大し、海外ニーズに対応する必要がある
- さつまいもに適した条件で輸送する物流体系の構築

対応

- 輸出に取組むモデル農家を選定・育成し、モデル農家を基点とした産地育成を図る
- 全農グループ（JA全農・全農インターナショナル）と連携して、他県産のさつまいもとの混載でさつまいも専用コンテナを仕立てて輸出する物流体系の確立

目標

- 鹿児島県産さつまいもの輸出拡大
- 全農グループと連携したさつまいも輸出専用コンテナを仕立てた輸送体系の確立

成果

- 鹿児島県産さつまいもの輸出拡大（JA南さつま）
- 全農グループと連携した輸出用輸送体系の確立



実施体制

鹿児島県	連携	全農グループ
JA鹿児島県経済連		Importer
J A		県地域振興局
鹿児島くみあい食品(株)		県大隅加工技術研究 C

輸出用さつまいも産地

〈輸出に取り組むモデル農家の選定〉

選定条件

- ①基腐病対策を実施できる技術水準を持つこと
- ②海外で人気の高い紅はるかやシルクスイートを作付けしていること

輸出に取り組む生産者の確保
紅はるか・シルクスイートを香港へ輸出



更なる輸出拡大のために

輸出に取り組む生産者の育成

台湾などの残留農薬規制が厳しい
国への輸出に対応した生産体制の
確立

新たな輸出仕向先の確保

輸出用輸送体系の確立

「さつまいも輸出プロジェクト」

鹿児島・宮崎・徳島3県のさつまいもを神戸に集荷し、1つのコンテナをさつまいも専用で仕立てて香港へ輸出する。



さつまいも専用でコンテナを仕立てる

(効果)

適温設定による品質の維持やロス率の低下

コンテナ積載率が高まることによる輸送費低減

まとめ：グローバル産地づくり推進事業の取組み

きんかん



抹茶



さつまいも



輸出専用産地の育成

海外ニーズの把握・求評活動

海外の残留農薬基準に対応した栽培暦のアップデート

農家所得の向上

(今後の課題)

鹿児島県産農畜産物のブランディングおよび更なる輸出拡大に資するために、

他の産地への波及、海外のマーケットニーズに合致した品目の探索

ご清聴ありがとうございました

